

SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークの取組①

本ネットワークは多様な主体がその垣根を越えて、交流・連携・情報交換を図るためのプラットフォームを構築し、SATOYAMAにおける生物多様性の保全や利用の取組の裾野拡大とさらなる推進を図っていくことを目的としております。

平成25年9月の設立以来、各種イベントへの参加やHP開設等のネットワーク普及啓発活動のほか、

◆セミナー第1回（平成26年2月26日）

◆セミナー第2回、名刺交換会（平成26年10月31日）

◆現地視察（平成26年11月1日）

を開催し、

ネットワーク参加団体の意識醸成、交流・情報交換、及び情報発信を図ってきました。

今後も、ネットワークの活動を通じて、里山里海の利用・保全の取組が国民的な取組になるよう、その裾野拡大と質の向上に貢献していきたいと考えています。

◆◆◆ セミナー ◆◆◆

◎第1回 in 東京

全国から約30団体・50名が参加し、里山の重要性を再認識するとともに、会員同士の交流・情報交換を図りました。

○開催概要○

日時：平成26年2月26日(水) 13時30分～15時

場所：TKP 大手町カンファレンスセンター（東京都千代田区）

基調講演「自然を守れば自然が守ってくれる」

**涌井 史郎 氏（国連生物多様性の10年日本委員会委員長代理、
東京都市大学教授、岐阜県立森林文化アカデミー学長）**

涌井氏から、「日本人は厳しくも豊かで個性的な自然に寄り添い、その特性を見極めるために様々なノウハウ、知恵を構築してきた。この「いなし」の智恵は、日本の農業土木、河川などさまざまな技術に投影されている。いなしの技術の根幹をなし、人間が生態系サービスを最大化して、自然の応力を最小化するための防波堤として作ったのが里山だった。」「里山は多面的効用を有し、地域におけるエネルギーと食料、水、そして自然災害の防止など、人が自然に深く関わり、手を入れることによって、暮らしを支える恵みを最大限に享受することができる自立循環型のシステムである。」と里山の重要性についてお話を頂きました。

その上で、「人と自然の共生を実現した里山社会、そういうモデルをどのように構築をし、生態系ネットワークの形成、自然の恵みあるいは驚異にどのように対応するのか、地域の風土・文化・歴史、地域特性をどのように保全していくのか、それらを地域全体が課題として捉え、考えていくことが、生物多様性のみならず、その地域にとって極めて大きな、潜在的な活力に繋がっていく」とのメッセージを頂きました。

